

# 薬学部

## 〔理念〕

『城西大学薬学部において学んだ者が、豊かな人間性と国際性および専門性を身につけ、地域社会の人々が主観的QOL（quality of life：生活と人生の質）を高く維持し健康のより良い状態を目指すこと（ヘルスプロモーション）を直接的・間接的に支援し、さらに、社会のグローバル化に適切に対応することによって、本学の建学の精神である「学問による人間形成」を実現する』

## 〔教育方針〕

- 1) 学究的思考を通して自己能力の開発に努めることができ、創造的で個性に富む、社会に有為な人材を育成する。
- 2) 学生中心型教育を根幹として自学自修を促すとともに、豊かな人間性と医療者としての倫理観を持ち、地域社会における患者と生活者の視点を重視できる人材を育成する。
- 3) 医薬品、食品、化粧品および化学物質の利用と安全性を科学し、地域社会のみならず国際社会の健康に資するための高度の専門性と基本的研究力を有する人材を育成する。

### 1. 薬学科

#### 〔アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)〕

薬学科は、社会のグローバル化に対応しつつ、地域社会の人々の健康増進を支援する薬剤師の育成を目指します。このため、薬学科では「国民一人ひとりの主観的QOL（quality of life：生活と人生の質）の改善とヘルスプロモーションを直接的・間接的に支援する努力を惜しまない人」を求めます。具体的には

- 1) 薬剤師として地域社会や医療現場に貢献したいと考えている人。
  - 2) 食と栄養に強い薬剤師になりたいと考えている人。
  - 3) グローバル化する社会に対応できる薬剤師になりたいと考えている人。
  - 4) 化学に強い薬剤師として研究力を身につけ、薬学と医療の発展に貢献したいと考えている人。
  - 5) 人と協力しながら、チャレンジすることが好きな人。
- を求めます。

#### 〔カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)〕

薬学科は「社会のグローバル化に対応しつつ、地域社会の人々の健康増進を支援する薬剤師の育成」を目標としています。この教育目標を達成するため、薬学科の薬学教育は「基礎教育」、「専門教育」、「統合教育」の順に進行し、それぞれ以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

- 1) 基礎教育の薬学概論、フレッシュマンセミナーおよび関連科目では、モチベーション教育のみならずコミュニケーション能力や医療人としての自覚と倫理観、および幅広い

教養と豊かな人間性を養います。

- 2) 総合薬学分野Ⅰ、Ⅱの科目を配置し、修得した知識・技能を広範囲な領域に応用し展開する能力を養います。特に、看護／介護／社会福祉演習、コミュニティーファーマシー論、社会と薬学、社会保険制度・コミュニティーファーマシー論などの科目を通して地域社会に貢献する薬剤師の養成を目指します。
- 3) 専門教育には基礎薬学分野、生理・治療分野、医療薬学分野の科目が配当され、医療人・薬剤師としての素養を身に付けるとともに、基礎栄養学、医療栄養学などの科目を通して食、栄養に関する知識を深め、高度医療への対応力と食を通じて人々の健康を護る能力を併せ持つ薬剤師の育成を目指します。
- 4) 統合教育の総合薬学分野Ⅱには専門語学科目を配置し、国際的コミュニケーション力の育成を目指します。
- 5) 統合教育の実務実習では、薬剤師としての自覚と実践力および問題解決能力を培い、卒業研究では高い科学的素養と基本的研究力を持った薬剤師の育成を目指します。

#### 〔ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)〕

薬学科において所定の単位を修得した者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、学士(薬学)の学位が授与されます。

- 1) 医療人としての強い自覚を持ち、高度な医療に貢献できる薬剤師になる能力
- 2) 医療制度、他職種の役割を理解し、地域社会の医療に貢献する薬剤師になる能力
- 3) 栄養学、食品機能学、中毒学などの素養を有し、関連する広範な分野で人々の健康を護るために活躍できる薬剤師になる能力
- 4) コミュニケーション力を備え、グローバル化した社会での医療に対応できる能力
- 5) 有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の確かな学力を有し、さらに高度な薬学の知識を学び研究力を発展させることができる能力

## 2. 薬科学科

#### 〔アドミッション・ポリシー(入学受入の方針)〕

薬科学科は、人々の生活の安全確保と健康増進を支援する薬科学技術者の育成を目指します。このため、生活者の立場に立って、医薬品・機能性食品・化粧品の有効性・安全性に関わり、「一人ひとりのQOL(quality of life:生活と人生の質)を高め、健康のより良い状態になるように支援する努力を惜しまない人」を求めます。具体的には

- 1) 将来、医薬品関連の研究者または開発者になりたいと考えている人。
- 2) 将来、機能性食品などの研究者または開発者になりたいと考えている人。
- 3) 将来、化粧品や機能性化粧品などの研究者または開発者になりたいと考えている人。
- 4) 将来、生命科学関連の研究者になりたいと考えている人。
- 5) 将来、臨床検査の素養をもった薬科学技術者として、地域社会やグローバル化する社会に貢献したいと考えている人。

- 6) 化学実験や生物実験が好きな人。
  - 7) 自然観察が好きな人。
  - 8) 数学が得意な人。
  - 9) 医薬品、機能的食品、化粧品とマネジメントを組み合わせる起業したいと思っている人。
  - 10) 多文化を理解し、地域またはグローバル化する社会で薬科学と人文科学・社会科学の境界領域にチャレンジしたい人。
  - 11) 人々の健康と安心・安全に寄与して働きたいと思っている人。
- を求めます。

### 〔カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)〕

薬科学科は「人々の生活の安全確保と健康増進を支援する薬科学技術者の育成」を目標としています。この教育目標を達成するため、薬科学科の教育は「基礎教育」、「専門教育」「統合教育」の順に進行し、それぞれ以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。さらに、**臨床検査の素養をもった**薬科学技術者育成を目指し、必要な科目を必修、選択および自由科目中に配置しています。

- 1) 基礎教育の医薬品・食品・化粧品概論、フレッシュマンセミナーおよび関連科目では、モチベーション教育のみならずコミュニケーション能力や薬科学技術者としての自覚と考え方、および幅広い教養と豊かな人間性を養います。
- 2) 専門教育には総合薬科学分野Ⅰ、基礎薬学分野、生理・治療分野、医療薬学分野の科目が配当され、薬科学技術者としての素養を培い、広い視野を持ち高度な科学技術に対応できる能力を持った薬科学技術者を目指します。
- 3) 統合教育は総合薬科学分野Ⅱの科目を配置し、修得した知識と技能を幅広く応用し、展開させる能力を養います。
- 4) 基礎教育、専門教育の一部では Semester 留学制度を活用し、国際的コミュニケーション力の育成を目指します。

### 〔ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)〕

薬科学科において所定の単位を修得した者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、学士(薬科学)の学位が授与されます。

- 1) 生活者を支援するという強い自覚を持ち、高度な科学技術に貢献できる薬科学技術者になる能力
- 2) 化粧品・化粧品学、基礎栄養学、バイオスタティクスなどの素養を有し、関連する広範な分野で活躍できる薬科学技術者になる能力
- 3) 医薬品・機能的食品・化粧品の有効性・安全性に関わる技術や制度、生活者への情報提供などを熟知し、地域社会での生活者の安心・安全に貢献する薬科学技術者になる能力
- 4) コミュニケーション力を備え、グローバル化した社会での医療に対応できる能力

- 5) 有機化学、物理化学、生化学、生理学、臨床化学および薬理学の確かな学力を有し、さらに高度の薬科学を学び研究力を発展させることができる能力

### 3. 医療栄養学科

#### [アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)]

医療栄養学科は、人々の健康増進を支援する管理栄養士の育成を目指します。このため、一人ひとりがQOL (quality of life : 生活と人生の質) を高めるのを目指すことを直接的・間接的に支援できる人材になりたい人、健康のより良い状態を目指すために努力を惜しまない人を求めます。具体的には

- 1) 個人を、人間をみることができると管理栄養士を目指している人。
  - 2) 薬と病気と最新の栄養学を学ぼうとしている人。
  - 3) 「食毒性\*」を理解し、それを食事設計に反映したい人  
[\*栄養の偏りなどが健康に悪影響を及ぼすこと]
  - 4) 地域ならびに国際的な医療活動に貢献し、チーム医療に参加したいと考えている人。
  - 5) 地域社会ならびにグローバル化した社会での福祉と医療の統合を考えている人。
  - 6) 遺伝子関連分野などのバイオサイエンスに強い管理栄養士を考えている人。
  - 7) 機能性食品・サプリメントを安全で効果的に扱える管理栄養士を目指している人。
  - 8) 傷病者や相手の立場で考えることができる人。
  - 9) 地域の特性に立脚した高齢者、要介護者のヘルスケアーマネジメントを身につけたい人。
  - 10) 栄養治療に必要な医薬品の知識を身につけたい人。
- を求めます。

#### [カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)]

医療栄養学科では、幅広い教養と豊かな人間性を有し地域社会ならびに国際社会において活躍できる専門性を身につけた管理栄養士を養成することを目的とするため、「基本科目」、「専門科目」、「統合教育科目」からなるカリキュラムについて、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

- 1) 基本科目は、大学における学習方法や学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うとともに、基本的な国際的コミュニケーション能力の向上を目指します。
- 2) 専門科目は、医療分野における栄養学のスペシャリストとして地域ならびに国際社会に貢献しうる人材を養成するために必要な科目として配置されています。このうち必修科目は、栄養学、薬学、医学の関連分野、および学士(医療栄養学)・管理栄養士養成のための教育上必要不可欠なものとして、知識と技能の修得を目指します。選択科目は、卒業後の進出分野を考慮してそれぞれの分野でスペシャリストとして活躍するために必要な科目ならびに専門語学科目を配置し、知識と技能の修得ならびに国際的コミュニケ

ーション能力の向上を目指します。

- 3) 統合教育科目は、専門科目を統合的に理解することで得られる、いわゆる医療栄養学が実践できる知識と技能の修得を目指します。

### 〔ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)〕

医療栄養学科のカリキュラムにおいて所定の単位を修得した者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、学士(医療栄養学)の学位が授与されます。

- 1) 病気の起こる仕組みを理解し、患者への薬物療法と栄養アセスメントを通じてどのような栄養指導、栄養管理が必要かを考えることのできる能力
- 2) 薬と食物の間にある「機能性食品」や「健康食品」に関する深い知識を適切に紹介する能力
- 3) 人間一人ひとりの遺伝子の違いを配慮したチーム医療に向けて、「オーダーメイドの栄養管理・栄養治療」を開拓する能力
- 4) Pharma-Nutrition\*分野を理解し活用できる能力  
[\*薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置して両者を融合させた学際分野]
- 5) コミュニケーション力を備え、グローバル化した社会での医療に対応できる能力
- 6) 医療栄養学が地域ならびに国際社会の人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力